

第八十九回 帝國議會
衆議院

入營者職業保障法及國民勞務手帳法廢止法律案委員會議錄(速記)

四九

轉換等ヲ推進スルノ必要ガアル狀態ニ
アリマシテ、本法ノ存置ハ最早其ノ意
義ヲ有セザルニ至リマンタノデ、之ヲ
廢止セントスルモノニアリマス

トスルモノデアリマス

ス
的活動ニ依リ遂行セシムルヲ適當ト認
メ、之ヲ撤廢セントスルモノデアリマ

同法廢止ノ際現存シテ居ル命令ニ付テ
ハ、六箇月ノ期間ヲ限り其ノ效力ヲ失
スルコトト致シマシテ、日下準備中ハ
所存シテ、之に付テ之を主張スル

必要ニ基ク變則的ナモノニアマスノ
ミナラズ、專資制ノ運用自體モ政府自
身ニ貯油設備及ビ輪送設備等ノ施設

トスルモノデアリマス

トスルモノデアリマス

的活動ニ依リ遂行セシムルヲ適當ト認
メ、之ヲ撤廢セントスルモノデアリマ
ス

同法廢止ノ際現存シテ居ル命令ニ付テハ、六箇月ノ期間ヲ限り其ノ效力ヲ失スルコトト致シマシテ、日下準備中ハ

必要ニ基ク變則的ナモノニアマスノ
ミナラズ、專資制ノ運用自體モ政府自
身ニ貯油設備及ビ輪送設備等ノ施設

次ニ鐵鋼事業法アリマスガ、本法ハ國防國家ノ基盤タル鐵鋼ノ増産ヲ圖ル爲メ、斯業ノ健全ナル發達ヲ企圖シテ制定セラレタノアリマスガ、終戰ト共ニ鐵鋼業ニ付テモ經濟民主主義化ノ要請ニ依リ、許可制度モ政府ノ監督モ、又免稅其ノ他ノ助成モ、其ニ取除カレタ自由ナル天地ノ下ニ經營ヲ遂行セシメルノ方、寧ロ斯業ノ健全ナル發達ヲ招來スルモノト考ヘマスノデ、之ホ廢止セントスルモノアリマス、尙ホ製鐵業ニ付キマシテハ、許可制廢止ノ結果、特殊製鐵憑立ノ虛ナキヤノ觀ヒ

ト同様、軍事上ノ必要ヨリ其ノ助成、監督ヲ規定シタモノデアリマスガ、終體ト共ニ其ノ必要性ガ失ハレタノミナズ、聯合軍側ノ指令ニ依リマシテ航空機ノ製造ハ全面的ニ禁止セラレルヨトナリマシタノデ、之ヲ廢止セントノルモノデアリマス
次ニ輕金屬製造事業法デアリマスガ、航空機工業ノ基礎原料タル「アルミニウム」、「マグネシウム」ニ付キ他ノ事業法ト全ク軌道シマシテ、許可制ヲ採用スルト共ニ、助成益ニ監督ヲ規定セルモノデアリマスガ、終戦ト共ニ其ノ意義ヲ失

以上ヲ以テ事業法關係ノ廢止ノ問題ヲ終リマシテ、第二トシノ軍需會社法ノ廢止ニ付キ御説明申上マス。本法ハ御承知ノ通り、戰時中就中既ニ情勢極度ニ逼迫し來し昭和十八年五月末軍需省ノ設置ト共ニ步調ヲ合ひ、制定セラタモノアリマンデ、其ノ内容ハ周知ノ如ク、軍需生産ノ増強ノ爲メ軍需金業ニ付キ生産責任制ノ確立セントスルニアツタノアリマスガ、戰爭終結と共に、斯カフ戰時中ノミニ存續之意義ヲ有スル法律ハ之ヲ殘置スルノ必要ハ全然失ハレマシタノチ、既ニ昭和二十一年八月十五日附ヲ以て、

スルコト致シマシテ、日下準備中ノ
新事態ノ基本トナルベキ立法ノ完成ノ
見ルマデノ暫定ノ措置ヲ講ズル次第
アリマス、隨テ措置法關係ノ各種統制
法令ハ一應其ノ效力ヲ存續スルコト
ナル譯デアリマスガ、終戦後廢止スル
ニ支障ナキモノ遂次撤廃シテ居ル
デアリマシテ、其ノ數ハ今後モ相當掛
加メル見込ダアリマス、尙モ總動員
ト國驗シテ、昭和十七年法律第十一
號、即チ重要產業國體令ニ依ル統制法
ニ行政官廳ノ職權ヲ行ハシムルコトヨ
規定シタ法律、廢止ニ付テ中止ダニ
ス、統制會廢止ニ付テハ未だ聯合國會
議決ノ所無也。

ナカツタモニアリマシテ、終戰ト共ニ移行スル爲メ、國家專賣方式ヲ撤廢シ、石油配給統制規則ヲ中止スル石油配給統制會社ノ運用ニ於テ今後ノ統制ヲ行フコトトシ、茲ニ石油專賣法ノ廢止ヲ提案致シタ次第アリマス
以上多岐ニ瓦ル商工關係法律ノ廢止ニ付テ申述ベマシタガ、要スルニ其ノ内容ハ戰時色濃厚ナ法律及ビ存置ル必要ノナイ法律ヲ廢止スルト云フノトニ落著ケ譯デアリマス、今後ノ經濟組織ヲドウスルカト云ふ基本問題ニ付

ヲ持ツ向テモナイデハアリマセサガ
今後補給金其ノ他經濟面ヨリスル助成
ガ一切撤廢サレマスレバ、起業費大ナ
シ要歲用資ノ事業ハ、採算用資ノ事

ト同様、軍事上ノ必要ヨリ其ノ助成、監督ヲ規定シタモノニアリマスガ、終戦ト共ニ其ノ必要性ガ失ハレタノミナラズ、聯合軍側ノ指令ニ依リマシテ航空機ノ製造ハ全般的ニ禁止セラレルコトナリマシタノデ、之ヲ廢止セントルモノニアリマス
次ニ輕金屬製造事業法デアリマスガ、航空機工業ノ基礎原料タル「アルミニウム」、「アルミニナ」、「マグネシウム」ニ付キ他ノ事業法ト全ク軌ヲ一致シマシテ、許可制ヲ採用スルト廿二、助成並ニ監督ヲ規定セルモノニアリマスガ、終戦ト共ニ其ノ意義ヲ失ヒテアリマス
次ニ有機合成事業法デアリマスガ、是ハ合成ゴム、「ベンゾン」ル等ト同様、軍事上ノ必要ヨリ其ノ助成、監督ヲ規定シタモノニアリマスガ、終戦ト共ニ其ノ必要性ガ失ハレタノミナラズ、聯合軍側ノ指令ニ依リマシテ航空機ノ製造ハ全般的ニ禁止セラレルコトナリマシタノデ、之ヲ廢止セントルモノニアリマス

以上ヲ以テ事業法關係ノ廢止ノ問題ヲ終リマシテ、第二トシ軍需會議法ノ廢止ニ付キ御説明申上ス。本法ハ御承知ノ通り、戰時中就中既ニ情勢變遷ニ遇迫し來ル昭和十八年十月末軍需省ノ設置ト共ニ步調ヲ合シ制定セラレタモノノアリシシテ、其ノ内容ハ周知ノ如ク、軍需生産ノ増強ノ爲ス軍需企業ニ付キ生産責任制と確立セントスルニアツタノアリズ。斯ガ、戰爭終結と共に、斯リノ戰時中ノミニ存續ノ意義ヲ有スル法律ハ之ヲ殘置スルノ必要ハ全然失ハレマシタノデ、既ニ昭和二十年八月十五日附〇以テ其ノ指定ノ取消ヲ實施致シヤシナ結果、本法ハ現ニ死文ト化シテ居ルノアリミシテ、此ノ際之ヲ廢止セントスルモノアリマス、但シ軍需會議法ノ

ナカツタ爲メ、殆ド其ノ質效ヲ擇得
ニ能フ限り官治統制ヲ廢シ、自治統制
ニ移行スル爲メ、國家專賣ノ方式ヲ撤
廢シ、石油配給統制規則ヲ中止スル
石油配給統制會社ノ運用ニ於テ今後
統制ヲ行フコトトシ、茲ニ石油專賣法
ノ廢止ヲ提案致シタ次第アリマス
以上多岐ニ瓦ル商工關係法律ノ廢
止ニ付テ申述ベマシタガ、要スルニ其
ノ内容ハ戰時色濃厚ナ法律及ビ存置ス
ル必要ノナイ法律ヲ廢止スルト云フヨ
トニ落著ク譯デアリマス、今後ノ經濟
組織ヲ下スルカト云フ基本問題ニ付
ケハ、聯合國側、民間其ノ他關係各方
面ニ意見ヲ十分ニ徵シ、慎重ニ立案ス
ル必要ガアリマス關係上、今議會ニハ
提案ノ運ヒニ至ラナカツタ次第チゴザ

シマシテ、餘程堅實且ツ有利ナ見込ミガナケレバ新事業ヲ開始スル者ハナイト豫想セラレ、且ツ萬一採算可能ノモノアラバ、寧ロ其ノ儘由山ニ發達セシマルノガ合理的デアルト信ジマスノデ、本法ハ此ノ際撤廢スベキモノト考ヘル

ト同様、軍事上ノ必要ヨリ其ノ助成、監督ヲ規定シタモノニアリマスガ、然隣國ト共ニ其ノ必要性ガ失ハレタノミナラントス、聯軍軍側ノ指令ニ依リマシテ航空機ノ製造ハ全面的ニ禁止セラレルコトナリマシタノデ、之ヲ廢止セントブルモノニアリマス

次ニ輕金屬製造事業法ニアリマスガ、航空機工業ノ基礎原料タル「アルミニウム」、「アルミニナ」、「マグネシウム」ニ付キ他ノ事業法ト全ク軌ヲ一致シマシテ、許可制ヲ採用スルトガ、助成並ニ監督ヲ規定セルモノニアリマスガ、終戦ト共ニ其ノ意義ヲ失ハシタノデ、之ヲ廢止セントスルモノニアリマス

次ニ有機合成事業法ニアリマスガ、是ハ合成功ガム、「ベンゾール」、「メタノール」、「酢酸」、「アセトン」、「メタノール」、「ホルマリン」等、各種有機製造事業ニ付キ許可制ヲ採ルト共ニ、依リカ國防ノ整備ワ企圖セルコト、テノ事業法ト全ク軌ヲ

以上ヲ以テ事業法關係ノ廢止ノ問題
ニ情勢變換ニ遇迫し來ニハ昭和十八年
十月末軍需省ノ設置ト共ニ步調ヲ合シ
制定セラレタモノノアリシテ、其ノ内容
ハ周知ノ如ク、軍需生産ノ増強ノ
爲メ軍需企業ニ付キ生産責任制ノ確
立セントスルニアツタノニアリマス
ガ、戦争終結と共に、斯カラ戦時中ノ
ミニ存續ノ意義ヲ有スル法律ハ之ヲ殘
置スルノ必要ハ全然失ハレマシタノデ
テ、既ニ昭和二十年八月十五日附ノ以
テ其ノ指定・取消・實施致シヤンシ結果
果、本法ハ現ニ死文ト化シテ居ルノデ
アリミシテ、此ノ際之ヲ廢止セントス
ルモノアリマス、但シ軍需會社法ノ
規定ヲ基礎トシ損失補償ヲ伴フ命令ヲ
發シタモノを少クゴザイマセヌメ、
補償ノ問題ニ付キマシテハ取敢々法律
的措置トシテハ、廢止法案中ニ補償ニ
關スル経過規定ヲ設ケルコトト致シタ
本法ハ御承知ノ通り、戰時中就中既
ノ廢止ニ付キ御説明申上マス

スルコト致シマシテ、日下準備中ノ新事態ノ基本トナルベキ立法ノ定め成リタリマス、隨テ措置法關係ノ各種規制法令ハ、應其ノ效力ヲ存続スルコトナル譯デアリマスガ、終戦後廢止スル支障ナキモノハ逐次撤廃、ナ居ルマサニテ、其ノ數ハ、今後モ相當加ヌル見込デアリマス、尙ほ總動員號ト關聯シテ、昭和十七年法律第十一號、即ち重要產業國體令ニ依ル統制會之行政官陞ノ職權ヲ行ハシムルコトヨリ規定シタ法律、廢止ニ付テ中止ダヌ、統制會廢止ニ付テハ未だ聯合國體會ト打合セ申デアリシテ、斷定的コトハ中止上ゲラレマセヌガ、權限移轉ノ對象トナシタ各種ノ事業法、統制會規則等ハ逐次撤廃セラレテ行シテ居ル、デアリマシテ、各統制會自身モノゾレ自主的團體ニ改組セントスル變遷ノ機會ニ、戰時統制ノ殘滓タル權限ノ移譲ノ法律ヲモ撤廃セントスルモノモアリマス

有七ザル爲メ、殆ド其ノ質效ヲ擇得
ニカツタモノニアリマシテ、終戰ト共
ニ能フ限り官治統制ヲ廢シ、自治統制
ニ移行スル爲メ、國家專賣ノ方式ヲ撤
廢シ、石油配給統制規則ヲ中止トスル
石油配給統制會社ノ運用ニ於テ今後ノ
統制ヲ行フコトトシ、茲ニ石油專賣法
ノ廢止ヲ提案致シタ次第アリマス
以上多岐ニ瓦ル商工省關係法律ノ廢
止ニ付テ申述ベマシタガ、要スルニ其
ノ内容ハ戰時色濃厚ナ法律及ビ存置
ル必要ノナイ法律ヲ廢止スルト云フリ
トニ落著ケ譯デアリマス、今後ノ經濟
組織ヲドウスルカト云フ基本問題ニ付
チハ、聯合國側、民間其ノ他關係各方面
ニ意見ヲ十分ニ徵シ、慎重ニ立案スル
ル必要ガアリマス關係上、今議會ニハ
提案ノ運びニ至ラナカツタ次第ヂゴサ
イマス、以上ヲ以チマシテ私ノ御説明
ヲ終リタイト存ジマス、何幸慎重御審
議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シ

次ニ工作機械製造事業法アリマスガ、本法モ亦國防ノ整備及ビ産業ノ發達ヲ圖ル爲メ、工作機械製造事業ノ確立ヲ圖ル意圖ヲ以テ制定シテ又モノデアリマスガ、終戰ニ伴フ暫事態ニ於キマシテハ、斯業ハ寧ロ整備縮小不可避ノ傾向ニアリマシテ、又其ノ基本大ル許可制モ積極的ニ存續スルを理由山本ヲ喪失シタト見ラレ、之ヲ廢止スルモ考ナキモノト考ヘラレマスノデ、是亦戰時諸法令撤廢ノ一環トシテ廢止セん

ト同様、軍事上ノ必要ヨリ其ノ助成監督ヲ規定シタモノニアリマスガ、専門機器ノ製造ハ全面的ニ禁止セラレルコト共ニ其ノ必要性が失ハレタノミナラズ、聯合軍側ノ指令ニ依リマシテ航空機ノ製造ハ全面的ニ禁止セラレルコトナリマシタノデ、之ヲ廢止セントスルモノニアリマス

次ニ輕金屬製造事業法デアリマスガ、航空機工業ノ基礎原料タル「アルミニウム」、「アルミニナ」、「マグネシウム」ニ付キ他ノ事業法ト全ク軌ヲ一致シマシテ、許可制ヲ採用スルト廿二、助成益ニ監督ヲ規定セルモノニアリマスガ、終戦ト共ニ其ノ意義ヲ失ハシタノデ、之ヲ廢止セントスルモノニアリマス

次ニ有機合成事業法デアリマスガ、是ハ合成ゴム、「ベンゾール」、「メタノール」、「酢酸」、「アセトン」、「メタノール」、「ホルマリン」等、各種有機製造事業ニ付キ許可制ヲ採ルト共ニ、助成益ニ監督ヲ圖リ、其ノ事業ノ確立ニ依ツテ國防ノ整備ヲ企圖セルコト、他ノ事業法ト全ク軌ヲ一致セルモノニアリマスガ、終戦ト共ニ是等事業ハ撤廃シテ業者自體ノ責任ニ於テ遂行セシム政令等の監督・助成・監督ヲ圖リナルコト、他ノ事業法ト全ク同様ニアリマスト認メマシテ、之ヲ撤廃セントスルモノニアリマス

ヨ終リマシテ、第二トシ軍需會社法ノ廢止ノ問題ニ情勢極甚ニ逼迫シ來ル昭和十八年十月末軍需省ノ設置ト共ニ步調ヲ合シ制定セラレタモノニアリシテ、其ノ内容ハ周知ノ如ク、軍需生産ノ増強ノ爲ニ軍需企業ニ付キ生産責任制ノ確立セントスルニアツタノアリテスガ、戰爭終結ト共ニ、斯リハ戰時中ノミニ存續シ意義ヲ有スル法律ハ之ヲ残置スルノ必要ハ全然失ハレマシタノアリテ、既ニ昭和二十年八月十五日附ノ以テ其ノ指定・取消ノ旨施致シヤシタル結果、本法ハ現ニ死文ト化シ居ルノアルモノアリマス、但シ軍需會社法ノ規定ノ基礎トシ損失補償ヲ命今ラレバシタモノモ少クゴザイモズメテ、補償ノ問題ニ付キマシテハ取敢ズ法律的措置トシテハ、廢止法案中ニ補償ノ關スル經過規定ヲ設ケルコトト致シタ次第デアリマス。

新事態ノ基本トナルベキ立法ノ完成、自下準備中スルコト致シマシテ、見ルマデノ暫定ノ措置ヲ講ズル次第アリマス、隨テ措置法關係ノ各種統制令ニ依ル統制會ノ行政官廳ノ職權ヲ行ハシムルヨトナリマス、尙ホ總動員令ト同様ノ規定シタ法律、廢止ニ付テ申上ゲヌ、統制會廢止ニ付テハ未ダ聯合國體令ト打合セ申デアリムシテ、斷定的コトハ申上ゲラレマセヌガ、權限移轉ノ對象トナツタ各種ノ事業法、統制會規等ハ逐次撤廢セラレテ行クテ居ル、アリマシテ、各統制會自身モソノゾレ自主的團體ニ改組セントスル機会ニ強キニ鑑ミマシテ、總動員法廢止ノ機會ニ、戰時統制ノ殘滓タル權限ノ移讓ノ法律ヲモ撤廢セントスルモノアリマス。

有七ザル爲メ、殆ド其ノ質效ヲ擲ガ得ニ能フ限り官治統制ヲ廢シ、自治統制ニ移行スル爲メ、國家專賣ノ方式ヲ撤廢シ、石油配給統制規則ヲ中核トブル石油配給統制會社ノ運用ニ於テ今後ノ統制ヲ行フコトトシ、茲ニ石油專賣法ノ廢止ヲ提案致シ次第アリマス
以上多岐ニ瓦ル商工關係法律ノ廢止ニ付テ申述ベマシタガ、要スルニ其ノ内容ハ戰時色濃厚ナ法律及ビ存する必要ノナイ法律ヲ廢止スルト云フヨトニ落著ケ譯デアリマス、今後ノ經濟組織ヲドウスルカト云フ基本問題ニ付テハ、聯合國側、民間其ノ他關係各方面ノ意見ヲ十分ニ徵シ、慎重ニ立案スル必要ガアリマス關係上、今議會ニハ提案ノ運ビニ至ラナカツタ次第アゴザイバズ、以上ヲ以チマシテ私ノ御説明ヲ終リタイト存ジマス、何幸憲重御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シス
○小柳委員長 質疑ヲ許シマス
澤君
○瀧澤委員 此ノ機會ニ一寸御伺ヒシテ置キカノゲスガ、石油ハ今内地デドノ位採レル豫定ニナツテ居ルノデアリマスカ、茲ニ國內ノ需要高ハドノ位ノ豫想ヲセラレテ居ルノカ、伺ヒマス
○小笠原國務大臣 國内ノ生産ハ大體三十萬キロリットル「デアリマシテ、年ニ百萬キロリットル」位ノ消費ヲ豫定致シノア居ル次第アリマス
○瀧澤委員 其ノ不足分ハドウ云フ風ニスル御考ヘデアリマスカ

鑑ミテ少シモ利益ガナイモノデ、何等運動ニ俟ソテ上ゲチレタト云フ問題デノアリマセヌ、ソレハ石炭ガ是ダケ滅産ニナツテ居ルト云フコトヲ能ク御承知下サルナラバ、御謗譖方出来ルト思フノアリマス、此ノ點ハ炭礦業者ノ懇意ニ依ツテドウ斯ウシタト云フ問題デハアリマセヌ、是ハ全然原價ナノア、八十五圓デモ利益ハ少シモ殖エテ居リマセヌ、ソレデ價格差額給金マデ今ヤツテ漸ク其ノ赤字押メサセ子居ルト云フ次第アリマス、併シナガラ貸金ノ問題ハ松本君が言ハレタ點ニ相當理由ガアルト認メテ居リマスガ、御承知ノヤウニ、炭礦労務者、ア、云フ地下仕事フヤツテ居リマスカラ、私共其ノ點ニ鑑ミマシテ、地上労務者ニ比シテ八割増額ト云フコトヲ方針トシテ決定シ、今ノ金額トナツテ居ル次第アリマス、但シ地上ノ労務者ノ二十圓、三十圓ト云フ賃金モアルカモ知レマセヌ、併シ未練性ノアルモノカドウカ、是ハ毎日行キマスカラ、其ノ日ハ二十圓、三十圓ニナリマセウガ、未練性ハ缺ケテ居ルト私ハ考ヘテ居リマス、炭礦労務者ノ方ハ未練的性質ヲ持ツテ居リマスカラ、所謂日傭取リ式ナ労務者ノ率ヲ以テ律スルヨコトハドウカト考ヘマスガ、併シ現在ノ炭礦労務者ガ決シテ日傭ガ良イト私ハ申シテ居ル釋ツハナイノアリマシテ、炭礦ガ採算ガ取レルヤウニナリ、國家ノ助成金ガ少クナルヤウニナレバ、勿論之ヲ更ニ上ゲテ行カナケレバナラヌト考ヘテ居リマスシ、又現ニ、是ハマダ司令部ノ方カラ國意ヲ得て居リマセヌガ、官吏ノ方モ或ハ銀行會社ノ社員等ニモソレドリ、家族手當ナリ、或ハ特別ノ物價手當ナリ、増額スルコトニナツテ居リマス、

サウ致シマシタ時ニハ、勿論炭礦勞務者ニ對シテモ其ノレバナ措置ヲ執リタ
仰セノ次第モアリマスガ、事實ヲシテ來殆ド三割シ
中上ダマス、例ヘバ常磐炭礦等ニ於キ
マシテハ此ノ間マデ勞務者ノ就業率ガ
三割以下チアツタメアリマスガ、昨
今回復シテ來マシテ、從來殆ド三割シ
カ坑へ入ラナカツタノデアリマスガ、
十一月中旬ニハ約四割五分ニ達シ、十
一月下旬ニハ七割ニ達シテ居ルノデアリマ
リマス、炭坑ニ依ツチハ七割九分ニ達
シテ居ルノモアリマシテ、是等ノ資金
ノ引上或ハ食糧ノ供給等ガ著々效果ヲ
擧ゲテ居ルト私見ナ居ルノデアリマ
ス。

テ 離イテ 居ル者ハ、斯ウ云フコトヲ當ニ計算フシテ考ヘテ居ルノデアリマシテ、先刻書ハレマシタガ、炭礦ノ經營者、困難ダ、困難ダト賣ハレルガ、アナ々ハ東洋ニ居ツテハ炭礦ハ分ラナイ、私ハ炭礦地ニ生レテ炭礦ニ育ツタ男アハ、明治ト大正ト昭和、此ノ間ノ炭礦經營ノ歩キ方ヲ見ナケレバ炭礦即石炭ノ問題ハ解決ガ付カナイ、問題ハ機構ヨリモ人ノ問題アル、炭礦地方ニハ暴力團ガアリマス、其ノ暴力團依ツテ炭礦ノ坑夫ハ常ニ斃メラレ、苦シメラレテ居ルノチアリマシテ、ソレ等フ保護シ、監督スルノガ整然デアルノデアリマス、所ガ鞍山監督局ヤ監察ニ訴ヘテ行ツタ所テ聽カナイ、聽カナイト云フノハ炭礦經營者ガ其ノ方面ヲ買收シテ居ル、ソレダカラ經營者ガ何ぞ申込シテ行ツテモ聽人レテ吳レナインノデアツテ、最後ニ私ノ所ヘヤツチ來ルコトモアリマス、斯ル不法ノ問題ガ解決付カナイ限りハ、今後石炭ノ問題ハ私ハ解決ガ付カナイト斷言シ得ルト思フ、ドウカ炭礦方面ニ行カレマシテ能ク調査サレタフ宣イト私ハ思フ、三億七千萬圓ト云フ金ガ出サレルヤウニナツテ居ハシ、ソレナドモ一ツノ運動アヤナイデセウカ、運動ニ來フレタ考ヘナケレバナラヌト思フ、サウ云ノ問題、石炭ノ問題ハ解決ガ付クト思

○小笠原國務大臣　松本君ノ御意見、實地ニ御サレチ居ル御意見ニ領應致マス、但シ三億數千萬圓ノ金ハヤツク融ヲシテヤツタノデアリマス、金融面カラヤツタモノニアリマス、復舊工外ニハ使ハサナイ建前ニナツチ居リエス、ソレカラア、云フ風エ九月、十月ト水害ガアリマシタカラ、水害ニ對アルモノト、戰時中盛ニ懸掛シタモノアルカラ、非常、坑内が荒レテ居ルノデ、サウ云ツ々復舊トカ云ノヤウナセガ、其ノニ使ハヌコトニナツチ居、マス、其ハ所謂金融ノ措置アリマシテ、政府ガ助成シムト云フ譯ナハゴザイマサヌ、尙本今一過昔フヤウデスガ、八十五年四倍ニナツタト音ハレルガ、成程表面ハサウナルノデスガ、アレハ開拓ノ面カタ見タ時ニハ補給金等デ相當ニシテ居ルノデ、八十五圓ヲ上ゲタトヨフコトハ補給金ヲ減ズルト云フ方法ニ執ツタノデス、炭礦業者ニ利益ヲ與ヘル爲エヤツタノデハナイ、先刻澗澤君ノ御尋ニ對シテ申上ゲタノデスガ、國トンデハ出來ルダケ價格一本チ買マヨウ、而モ價格差補給金万圓ハ昭和二十一年度ノ预算ダハ二十二億七千萬圓ニシテ、補助金トカ補給金ト云ソモノヲメヨウ、而モ價格差補給金万圓ハ昭和二十一年度ノ预算ダハ二十二億七千萬圓ニシテ居ル、是ハ現在國ノ財政上左辯ナヨウ、而モ價格差補給金万圓ハ昭和二十一年度ノ预算ダハ二十二億七千萬圓ニシテ居ルノデ、四倍上ゲテ儲ケサス意思ハ毛確然タゞテ居リマセヌカラ左様御諒承願ヒ

五十一回九十五錢デアツタ云ノコト
デハナインデスカ、ソレガ今度ハ百五
十八回十三錢ニナツテ居ルヤウニ私ハ
聴イテ居リ、スガ……

○小笠原國務大臣 其ノ通リデアリマス
ガ、ソレハ產額ト云フモノヲ御覽下サ
ラヌトイカズ、昨今ノ如ク月ニ五十萬
「トン」ソコヽノヤウナ產額ト、此ノ
前ノヤウニ四百六十萬「トン」、本年ニ
ナツテ三百六十萬「トン」カラ取レタ
時ト、五十萬「トン」ソコヽノ時ト、
般例其メ他ニハ餘リ大キナ變リガナ
ノデアルカラ、サツ云フ差ツ生ジテ來
ルノデ、實際ニ收入カラ見ルト向フハ
非常ニ減ツテ居ル、「トン」當リダケ
見ハカラサウデスケレドモ、是ハアナ
タハ御分リデセウ、五十萬「トン」出シ
タ時ト三百六十萬「トン」ノ時トハソレ
ハ比率ガ違フノハ當然デアリマシテ、
是ハ非常ニ儲ケサシタ言ヘレル
ガ、是ハ松本君ニ説明セヌデモ御分リ
ダト思フ

○松本(治)委員 投資額ニ對シテ出張
疋ガ滅レバソレダケ「ゴスト」ガ上ル、
斯ウ云ア御話デアリマスガ、ソコニ大
キナ魂魄ガアルノデス、ソレガアナタ
方ニハ分ラヌカラ常ニ運動ガ效ラ奏ス
ルノデアリマス、此ノ價値ガ上ゲラレ
ルカラバ炭ガ出ルデヒウ、ヨ、二、三
箇月ハズツト出マセウ、誰ガ何ト言ソ
テモ出マス、出マスガ、出テシマヘバ
又停頓ノ狀態ニナリマス、ト云フノハ
掘進ノ爲ニ補助金ヲ取ル、補助金デ掘
進フタル、切羽ヲ付ケテ行ク、其ノ間
ハ出炭ハ少イ、斯ウ云フコトデハ山ハ
立ツテ行カナイ、ソレガカラ一ヶ值上
シテ貰ヒタイト云フ運動フヤル、値ガ
上ルト今度ハ掘進ヲヤツテ切羽ヲ付ケタ
所カラグット出ス、ソレガ二、三箇月

過ギマスト、長クテモ半年經チマスト
又石炭ノ量ガ減ツテ來ル、ソレハ出炭
ヲスルノダナク掘進ヲヤル、サウシテ
其ノ次ノ値上ノ用意ヲスル、是ガ今マ
デ行ハレタヤリ方ナノデス、今マデノ
經過ヲズソト見テレルト能ク分ル管子
ス、ソレニ御氣ガ付カナケレバ尚フハ
長イ舌ヲ出シテ又掛カツタナト云フコ
トニナル、其ノ證據ニハ足リナイヽ
ト言ヒナガラ炭礦經營者ノ生活ハドウ
デセウ、アノ坑夫ノ人達ハ地下數千尺
ノ下カラ炭礦經營者ノ私的生活ヲ見子
居ルノデス、此ノ間マヂブランシシテ
居ソタ連中ガ炭礦ヲ經營スル、サウ云
ルト別荘ガ幾ツモ殖エテ、其處ニハ姫
麗ナ女ガ何人モ住ンデ居ルト云フ實情
ガ、ソレ等ノコトハ直々分ルノアリマ
ジ、サウ云フヤウナ者ハ經營困難ト申
シマシチモ滅ラナイデス、サウ云フ
トハ坑夫ノ人達ニ分ラケレバ宜イ
ハ國家管理ニスルカ、國營ニスルカ、
私ハ坑夫ノ人達ニ生産管理ヲサセルト
云フコトハ石炭問題解決ノ唯一ノ途ダ
ト思フ、其ノ方面ニ進ンデ貰ヒタイト
私ハ思フ

ハ執りヤセヌガ、サウ云ノ心持デ以
ヤラセタイ、サウシテ勞貢ノ本當ノ心
ノ一致ヲ見テ成績ヲ擧ゲサセタイト云
フヤウニ考ヘテ居リマス、尙ホ現在ノ
所國營ニスルト云フ考ヘハ持ツテ居リ
マセヌ

○松本(治)委員 商工大臣ニ一寸御騒
ネシテ置キマスガ、外地ニ居ラレル軍
人ノ中ニ炭礦方面ニ關係ノアル人ガ十
二萬餘アルト云フコトデアリマスガ、
サウ云フ人達ヲ優先的ニ復員サセルナ
ウナコトヲ考ヘテ居ラレナイデセウカマ
○小笠原國務大臣 考ヘテ居リマシ
チ、義ニ聯合軍ノ方ニモ歎願書ヲ出し
マシテ、向フノ方カラモ同意ヲ得チ福
先的ニ炭礦ニ經時ノアル人ハ歸サスト
云フ措置ヲ執リ、現ニ復員省ノ方デマ
其ノ方針ヲ取扱ツテ居リマス

○松本(治)委員 一日モ早クヤツテ質
フヤウニ御願ヒ致シマス

○小柳委員長 此ノ際三田村君ノ司法
大臣ニ對スル質問ヲ便宜上許シタイト
思ヒマス——三田村君

○三田村委員 本委員會ニ議題トナウ
チ居リマスル戰時刑法ノ廢止其ノ他ニ
付キマシテ既ニ審議ガ行ハレタヤウキ
アリマスガ、私ハアトカラ此ノ委員會
ニ加ハリマシタノデ、少シバカリ御猶
ネ致シタイト思フノデアリマス、間題
ハ稍々基本的ナ點ニ觸レマスガ、大臣
御承知ノ通り「ボタダメ」宣言ノ受諾ス
依ツテ日本ノ諸制度、諸秩序ガ百八十
度變ツチ來タ、宣言ノ中ニモアリマス
ガ確立セラレザル限り、眞ノ文化國家
ナルモノハ基本的の人權ノ尊重デアリマ
ス、此ノ基本的人權ノ尊重ト云フモニ
ル如タ、新シ日本ノ基本的ナ課題ト
建設ハ不可能デアリマシテ、此ノ意味
カラ致シマスト今後ノ司法行政、司

權運管ノ點ニ關シテハ、多々考へナケレバナラヌ點ガアルト恩ブノデス、大臣御承知ノ通り、支那事變カラ今日マデ、就中大東亜戰爭進行ノ過程ニ於ケル日本司法權ノ運營ト云フモノハ、正ニ行政ニ隸屬シタト斷言シテ所憚ラナアリマス、今マデヤツタコトガ間違ヒテアツタ、情勢ガ變ツタンダカラ、即チ國ノ施政モ變ツタンダカラ、其ノ結構ニ切替ヘヨウト云フコトヘ極メテ簡単デ單ダアリマス、役所ノ通達ノ上ニモ文書ノ上ニモ書タコトハ簡単デアリマスガ、實際之ヲヤル場合ハサウ簡単デハナイ、私ハ能ク云フ 言葉デアリマスガ、政治ハ作文デハナイ、通牒ダケ、或ハ訓示ダケデハ濟マナイ、是ハ事實、實體、客觀、具體的ニ變ツテ來ナケレバナラヌ、變ツテ來ナケレバナラヌ場合エーツ深刻ニ困ル問題ガアル、昨日モ少シ申上ダタノデアリマスガ、上ノ人ハ變ツタ立場カラ政治的ニ、行政的ニ變ツタ物ノ言ヒ方ヲシマス、人モ變テ來マスカラ變ツタ物ノ言ヒ方ヲシマスガ、ソレヲ受ケル人、主體ハ同ジデス、同じ人が全々變ツタコトヲ上カラ體カサレマス、全々變ツタコトヲ同ジ人ガヤラナケレバナラヌ、而モ對象ハ同ジ民衆デアリ、國民デアリ、人デサレル大先輩デアリ、又多年貴族院ニ於テモ人權問題ニ付テ常に健全ナル脚發言ヲナスツテ來テレタノデアリマスガ、其ノ岩田司法大臣ガ今日ノ一大變

革ニ直面シテ、其ノ在野當時カラ運営ヲ來ラレマシタ日本司法權ノ運営、而シテ大臣が就任サレテ以來大イナル變革ノ第一歩ニ當ツテ、私ノ今申シタ意味ハ十分御分リト思ヒマスガ、司法權運営ヲ直ニ正シイ方向ニ置替ヘル、詰リ戰時のナ刑法的措置カラ眞ニ國家的文化的ナ刑法的措置ニ變ヘル爲ニトウ云フ御所見ヲ御持チアリマスカ、又戰爭終結以來今日マデ戰時のナ刑法的措置カラ平時のナ刑法的措置——平時的ナ刑法措置ト云々、間違ヒマスガ、眞ノ正シイ意味ノ刑法的措置、司法權的措置デス、其ノ方面ニ切替ヘルノデナタテ復元スル、復活スル爲ニトウ云フ御處置ヲ執ラレマシタカ、唯司法權ノ全ク同感アリマシテ、其ノ爲ハ法律ノ廢止ダケデハイケナイト思ヒマスガ、此ノ點ヲ先づ御伺ヒシタイト思ヒマス

シマスト、只今ハレマシタヤウニ、
私共ハ從來司法ト云フモノガ、近來ハ
段々行政化シテ來テ居ルト云フ所ニ、
其ノ弊害ガアルノデアツテ、ドウシテ
モ是ハ司法ノ價面目ヲ取返サケレバ
ナラヌ、司法ノ行政化スルト云フコト
ハ、何處ニ原因ガアルカ、是ハ色々ノ
點デアルト思ヒマスルガ、是ハヤハリ
檢事局、殊ニ刑事方面ガ問題ニナルノ
デアリマスルガ、檢事方面ノ勢力ニ裁
判方面ガ何トナク壓倒サレルト云フ傾
向ガ、ヤハリソレノ重負ナ原因フナシ
テ居ルノヂヤナイカ、司法ハヤハリ何
處マデモ裁判所ト云フモノガ中心ニナ
ツテ、檢事方面ノ勢力ヨリモ斷然其ノ
上ニ居ナケレバナラヌモノダト考ヘテ
居ルノデアリマシテ、サウ云フ方面ニ
司法ヲ導イテ行キ、組替ヘテ行クト云
フコトガ必要デモアリ、又ソレデナケ
レバ、司法ノ責務ヲ果スコトガ出來ナイ
ト思フノデアリマス、然ラバサウ云フ
風ニスルニハドウシタラ宜イカト云フコ
トハ、今マデハ裁判所ト云フモノガ一
般ノ他ノ行政部ノ方面ニ對シテ轉ンゼ
ラレタ、一般ノ社會カラモ輕ンゼラレ
ルシ、政府ノ他ノ方面カラモ輕ンゼラ
レテ居ツタ、之ヲドウシテモ適當ナ地
位ニ上ダルト云フ爲ニハ、判事ノ地位
ヲ向上シナケレバナラヌ、具體的ニ言
へバ、此ノ判事ノ最高峰ニ立ツテ居ル
大審院長ト云フモノノ地位ヲ、他ノ國
家ノ機關ニ比較シテ、モツ少シ高高地
ゲテ行カナケレバナラヌ、ソレモ比較
的ノ位置ヲモウ少シ檢事ニ對シテモ、
裁判所ト云フモノガ高地位ニアルヤ
ウニシナケレバナラヌ、ソレニハ同時
ニ檢事局ト云フモノヲ今ハ御承知ノ通

リニ裁判所ニ附置シテ居リ、法制ノ上ニモ又實際ノ形ノ上ニモ、裁判所構成法カラ檢事局ト云モノヲ分離スルシ、又形ノ上ニ於テモ判事ト檢事が始終同ジ所デ仕事ヲシテ居ルト云フコトヲ止メテ、別所ニ持ツテ行クト云フコトヲシナケレバナラヌノヂヤナイカト云フコトアリテ、差當り裁判所ト檢事局ノ分離ト云フコト、サウシテ裁判官ノ地位ヲ上ダルト云フコトヲ先ヅヤルベキザアラウ、斯ウ考ヘテ他ノ點モアリマスルガ、先ヅソレカラツ手ヲ著ケテ行キタイト考ヘチ、折角今努力シテ居ル所アリマス

○三田村貞員 時間ノ關係セアリマスカラ、成ベク簡潔ニ要點ニ付テノミ御尊不致シテ、又他ノ機會ニ譲リタインヒマスガ、只今大臣ノ御述ベニナリマシタ通り、私ハ從來ノ日本ノ司法権ノ運用、斯ウ云々タ概念的ノ表現ヲスルコトガ少シ間違ヒト思ヒマスガ、數近ノ司法権ノ運用ガ非常ニ間違ヒト思ノ非常ニ大キナ原因ヲナシテ居ルト思シタ恩フチ居リマス、司法権ノ行政一人ナノアス、此ノ委員會ノ議題ニナシテ居リマス戰時刑法ニ付キマシナハ、私ハ十八年ノ此ノ衆議院委員會ニ於キマシテ、最後マヂ反對シタ一人アリマス、斯ウ云フ立法ヲレバ戰爭ニ負ケル、私ハ信念的ニサウ申上ゲタ、岩村司法大臣ト私ハ一週間ニ亘クテ其ノ議論ヲ讀ケテ、私ガ一番イケナイト言ツタノハ、政治上ノ要求ヲ立派化シナイコト、就

大臣ノ只今仰シャツタ通り、司法権ハ遺憾ナガラ行政ニ隸屬シテシマフ、政
府ノ性格ハ幕府ニールト云フコトガ、
私ノ變ラザル信念デアリ、主張デアツ
タ、委員長モ其ノ時ニハ慥カ特別委員
ノ一人デアツタと思フノデアリマス
ガ、私ハ今日ノ敗戦ノ中ニ立ツテ、其
ノ點甚ダ遺憾至極ニ思ツテ居リマス、
サウシテ私自身ガ反対シ續ケタ其ノ戰
刑法ニ依ツテ、拘引檢舉サレ、取調ベ
ヲ受ケテ參リマシタ、私ガ言ツタ通り
ダツタノデス、裁判所ニ行ク場合ハ、
私ハ司法大臣ニ詳シヨコトハ中上位マ
セヌガ、直接政府ノ指示、命令ニ依ツ
テ、警察ノ捜査權ヲ發動シタノデアリマス、サウ
マス、サウシテ其ノ捜査權發動ノ形
式ハ、ヤハリ戰時刑法七條ノ三乃至四
デ命令ガ得出テ居ルノアリマス、サウ
云フモノガサウ云ソ形デ行ハレテ來ル
コトヲ私ハ心配シタ、當時ノ司法大臣
ハソソナトハナイト斷言サレテ居ラ
レマシタガ、サウデアツタ、私ハ其ノ
間ノ事情ニ能ク知ルガ故ニ、自ラ進
デ戰刑法ニ該當スルヤウニ、自分で調
務的ニ無理ニナリマス、遂ニ當時ノ檢
書マデ作ワテ行ツタ、私ハ裁判所ニ行
事局ハ戰刑法ノ違反トシテハ身柄ヲ受
取ルコトヲ拒ミシテ、何デ受取シタ
カト申シマスト、此ノ間十月四日テス
カ「マッカーサー」司令部ノ通牒ニ依
テ廢止セラマシタル言論出版集貿結社
等臨時取締法ニ依ツテ私ノ身柄ヲ受取
シタ、是モ一ツノ便宜主義デアル、三
田村ヲ三月モ四月モ警視廳ニ置イタ
ダカラ、此ノ儘釋放スル譯ニ行カナ
シ、何トカ一ツ締括リラシナケレバナ
ラナイト云ア所ニ、其ノ身柄ノ處置ガ

アル、ソニミ私ハ日本司法權ノ間違ヒ
ガアツタ思フ、サウ云フ間違ヒハ多
多アリマス、此ノ委員會ニ掛ツテ是ニ
マス戦刑法ト云ヒ、ソレニ闘勝シテ
時諸立法ト云ヒ、更ニ今申シマシト言
論集會結社法ト言ヒ、悉ク行政上、要
求ヲ立法化シタモノニアリマス、而モ
是ハ司法省ガ提案シテ居リマス、茲ニ
私ハ大キア間違ヒヲ犯シタ断言セザ
ルヲ得ナイノアリマス、同時ニ大臣
モ只今御話ニナリマシタ通り抑々間違
ヲタ戰時司法體制ト申シマスカ、司法
權運營ノ一ツノ習性、一ツノ制度的ナ
ルヲ得ナイノアリマス、是ハ同ジの
流ガ今モ殘ツテ居リマス、是ハ同ジの
ガ同ジ機構デ同じ社會デヤツチ居ルノ
デスカラ、中々簡單ニ通牒ニ訓示ダケ
テ直ラナイ空閒氣分其ノ儘アルノデ
ス、是ハ極メテ重要ナ問題デアラウト
思ヒマス、試ミニ、二ノ事實ニ付テマス
大臣ノ御歴史ヲ煩シタトイ思ヒマス
ガ、私自分ニ警察カク置所ヘ、ソ
レカラ裁判所ヘ自分ノ體ヲ體験シテ來
マシタガ、私ハ自分ノ體験其ノモノノ
付テハ済ンダヨテスカラ申上ゲタク
ナイシ、申上ゲマセヌ、又如何ニソニヨ
大キナ矛盾ヲ知リ、不法ナル扱ヒヲ知
シテモ、ソレニ申上ケナイコトニ致シ
マスガ、私ハ非常ニ遺憾ニ思フノデス、
裁判所ノ檢事も同様デスガ、人ニ對ス
カラ朱シノデヤハリ人ト言フ概念ヨリ
モ或ハ事件其ノモノガ物ニ近イヤウナ
御經ヒト思ヒマスガ、檢事ニシマンシテ
モ、判事ニシマンシテモ長イツノ習シ
申シマスト十八歳カラ二十一、二十二
歳位ノ少年犯ノ御扱ヒヲ見テ居ルト、
是ハ夜店ノ「バ」ノ印キ寶リノヤウ
ナ被ヒナノデス、ズラット竝ベテ置

起サナイヤウニ導クガト云フエトニ私
ハ司法權ノ主タル任務ガアリ、主タル
目的ガナケレバナラスト思ヒマス、ソ
レガ恰モ檢事モ判事モ成績ノ點取纏ノ
ヤウニズラット竝ベテ何年々トヤツ
テシマフ、私ハ斷ジテサウ云フコトハ
イカヌト思フ、刑務所、醫視廳ノ留置
場モ監獄法ニ依ツテ司法省ノ監督下ニ
アル謂デアリマスガ、是モ同様デアリ
マシテ、私ハモウ少シ人間ヲ人間トシ
チ扱ハナケレバナラナイ、人間ハ物デ
ハナイ、事件モ物デハナイ、少クトモ
刑事裁判ニ於テ扱フ扱ヒニ付テハ――
民事ハ別デ民事ハ物デ宜イデスガ、刑事ニ
ナノズカラ物デ宜イデスガ、刑事ニ
於テハ物ニ非ズ人ナノデス、人格ナノ
デアリマス、人格ヲ對象ニシテヤラレ
ル刑事裁判ハ私ハモウ少シ尊嚴ヲ保ツ
行キタイト考ヘルノデアリマス、其
ノ見地カラ私ハサツキ司法大臣ガ言ハ
レマシタガ司法省ハ此ノ際大ニ考ヘ
ナケレバナラヌ、今マデモ司法省ノ
豫算ヲ見ルト一番隅ツコニチヨツビ
リシカナ、私ハ斯ウ云フ態度ヲドウ
シテ今マデ執ラレタノカ不思議テ堪ラ
ナイ、大群ナ人權ヲ扱フ國家ノ最モ尊
嚴デアルベキ司法權ノ行使ヲ擔當スル
司法官ガ斯ウ云ツタ微々タル豫算デ事
ヲ爲シテ居る態度自身ガ不思議テ堪ラ
ナイ、堂々ト十分豫算ヲ取ラレテ、大
事ナ人間ヲ扱ソノデスカラ、間違ヒノ
ナイヤウニ萬全ヲ期スル爲ノ措置ヲ採
ルノ上ノ空手形ニ終ツテハ何モナリマ
セヌ、警察ニ於テモ檢事局ニ於テモサ
ウデアリマス、裁判所ノ事情ヲ聽イテ
見マスト、トテモ事件ガ多イカラヤレ

ナイ、斯ウ言ハレル、檢事局デモ裁
判所デモサウ言ハレル、是ハ勿論サウ
ダト思ヒマスガ、事件が多クテ十分ノ
審議ガ盡シテ居レナカツタラ人ヲウン
トトダニヤサレテ宜イト思ヒマス、ウント
待遇ヲ良クサレテ宜イ、裁判所ノ書記
アタリデモ非常ニ薄給デ、私ハ實ニ同
殖ヤシテ、外國ノ裁判ノ司法權ノ運用
ナンカ見テモ、コンナ例ハナイ、大抵
判事ハ一人デスガ、此ノ判事ガ一人デ
一箇月ニ何十件モ何百件モ事件ヲ處理
類ヲ持ツテ來ル時カラ一年半ナラ一年
半ト書イテアル、三年ナラ三年ト書イ
テアル、大陸ノ標準ガアツテ書類ノ上
ノ標準ナノデス、ソレデ全クノ丸公カ
闇カ知リマセヌガ、相場ガ決シテ居ツ
テ、ツラツト讀ムダケナノデス、私ハ
今自分ノ家ニ一人サウ云ツタ立場ノ人
ヲ預ツテ居リマスガ、何トカ眞面目ナ
途ニ還ツテ貰ヒタイト云フ氣持テ預ツ
タ所ガ眞面目ナ氣持ニ還ツテ貰ヒタイ
間違ヒニナル、而ソレガ國家社會ニ
大キナ迷惑ヲカケル結果ニナル、裁判
ニ依ツテ司法ノ運用ニ依ツテソレヲ結
果スル極メテ由シシ問題デアリマス
カラ、此ノ點ハ大イニ勇氣ヲ以テ御考
ヘ願ヒタイト思ヒマス、此ノ議會デハ
準備モ出來ナイデセウガ、私ハ其ノ點
戰刑法ヲ廢止シタ此ノ機會ニ申上ゲテ
置イテ、戰時日本ノ司法權カラ、文化

日本ノ司法權ヘノ切替ノ時期ニ當ツテ
司法省ガドウ云フ態度デ出テ來ラレ
カ、此ノ次ノ議會ニハ十分私ハ司法省
ノ態度ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス
コトデハイカヌ、此ノ判檢事ノ問題、
司法官ノ問題ハ人ガ足リナケレバ十分
殖ヤシテ、外國ノ裁判ノ司法權ノ運用
ナンカ見テモ、コンナ例ハナイ、大抵
判事ハ一人デスガ、此ノ判事ガ一人デ
一箇月ニ何十件モ何百件モ事件ヲ處理
類ヲ持ツテ來ル時カラ一年半ナラ一年
半ト書イテアル、三年ナラ三年ト書イ
テアル、大陸ノ標準ガアツテ書類ノ上
ノ標準ナノデス、ソレデ全クノ丸公カ
闇カ知リマセヌガ、相場ガ決シテ居ツ
テ、ツラツト讀ムダケナノデス、私ハ
今自分ノ家ニ一人サウ云ツタ立場ノ人
ヲ預ツテ居リマスガ、何トカ眞面目ナ
途ニ還ツテ貰ヒタイト云フ氣持テ預ツ
タ所ガ眞面目ナ氣持ニ還ツテ貰ヒタイ
間違ヒニナル、而ソレガ國家社會ニ
大キナ迷惑ヲカケル結果ニナル、裁判
ニ依ツテ司法ノ運用ニ依ツテソレヲ結
果スル極メテ由シシ問題デアリマス
カラ、此ノ點ハ大イニ勇氣ヲ以テ御考
ヘ願ヒタイト思ヒマス、此ノ議會デハ
準備モ出來ナイデセウガ、私ハ其ノ點
戰刑法ヲ廢止シタ此ノ機會ニ申上ゲテ
置イテ、戰時日本ノ司法權カラ、文化

日本ノ司法權ヘノ切替ノ時期ニ當ツテ
司法省ガドウ云フ態度デ出テ來ラレ
カ、此ノ次ノ議會ニハ十分私ハ司法省
ノ態度ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス
コトデハイカヌ、此ノ判檢事ノ問題、
司法官ノ問題ハ人ガ足リナケレバ十分
殖ヤシテ、外國ノ裁判ノ司法權ノ運用
ナンカ見テモ、コンナ例ハナイ、大抵
判事ハ一人デスガ、此ノ判事ガ一人デ
一箇月ニ何十件モ何百件モ事件ヲ處理
類ヲ持ツテ來ル時カラ一年半ナラ一年
半ト書イテアル、三年ナラ三年ト書イ
テアル、大陸ノ標準ガアツテ書類ノ上
ノ標準ナノデス、ソレデ全クノ丸公カ
闇カ知リマセヌガ、相場ガ決シテ居ツ
テ、ツラツト讀ムダケナノデス、私ハ
今自分ノ家ニ一人サウ云ツタ立場ノ人
ヲ預ツテ居リマスガ、何トカ眞面目ナ
途ニ還ツテ貰ヒタイト云フ氣持テ預ツ
タ所ガ眞面目ナ氣持ニ還ツテ貰ヒタイ
間違ヒニナル、而ソレガ國家社會ニ
大キナ迷惑ヲカケル結果ニナル、裁判
ニ依ツテ司法ノ運用ニ依ツテソレヲ結
果スル極メテ由シシ問題デアリマス
カラ、此ノ點ハ大イニ勇氣ヲ以テ御考
ヘ願ヒタイト思ヒマス、此ノ議會デハ
準備モ出來ナイデセウガ、私ハ其ノ點
戰刑法ヲ廢止シタ此ノ機會ニ申上ゲテ
置イテ、戰時日本ノ司法權カラ、文化

日本ノ司法權ヘノ切替ノ時期ニ當ツテ
司法省ガドウ云フ態度デ出テ來ラレ
カ、此ノ次ノ議會ニハ十分私ハ司法省
ノ態度ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス
コトデハイカヌ、此ノ判檢事ノ問題、
司法官ノ問題ハ人ガ足リナケレバ十分
殖ヤシテ、外國ノ裁判ノ司法權ノ運用
ナンカ見テモ、コンナ例ハナイ、大抵
判事ハ一人デスガ、此ノ判事ガ一人デ
一箇月ニ何十件モ何百件モ事件ヲ處理
類ヲ持ツテ來ル時カラ一年半ナラ一年
半ト書イテアル、三年ナラ三年ト書イ
テアル、大陸ノ標準ガアツテ書類ノ上
ノ標準ナノデス、ソレデ全クノ丸公カ
闇カ知リマセヌガ、相場ガ決シテ居ツ
テ、ツラツト讀ムダケナノデス、私ハ
今自分ノ家ニ一人サウ云ツタ立場ノ人
ヲ預ツテ居リマスガ、何トカ眞面目ナ
途ニ還ツテ貰ヒタイト云フ氣持テ預ツ
タ所ガ眞面目ナ氣持ニ還ツテ貰ヒタイ
間違ヒニナル、而ソレガ國家社會ニ
大キナ迷惑ヲカケル結果ニナル、裁判
ニ依ツテ司法ノ運用ニ依ツテソレヲ結
果スル極メテ由シシ問題デアリマス
カラ、此ノ點ハ大イニ勇氣ヲ以テ御考
ヘ願ヒタイト思ヒマス、此ノ議會デハ
準備モ出來ナイデセウガ、私ハ其ノ點
戰刑法ヲ廢止シタ此ノ機會ニ申上ゲテ
置イテ、戰時日本ノ司法權カラ、文化

日本ノ司法權ヘノ切替ノ時期ニ當ツテ
司法省ガドウ云フ態度デ出テ來ラレ
カ、此ノ次ノ議會ニハ十分私ハ司法省
ノ態度ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス
コトデハイカヌ、此ノ判檢事ノ問題、
司法官ノ問題ハ人ガ足リナケレバ十分
殖ヤシテ、外國ノ裁判ノ司法權ノ運用
ナンカ見テモ、コンナ例ハナイ、大抵
判事ハ一人デスガ、此ノ判事ガ一人デ
一箇月ニ何十件モ何百件モ事件ヲ處理
類ヲ持ツテ來ル時カラ一年半ナラ一年
半ト書イテアル、三年ナラ三年ト書イ
テアル、大陸ノ標準ガアツテ書類ノ上
ノ標準ナノデス、ソレデ全クノ丸公カ
闇カ知リマセヌガ、相場ガ決シテ居ツ
テ、ツラツト讀ムダケナノデス、私ハ
今自分ノ家ニ一人サウ云ツタ立場ノ人
ヲ預ツテ居リマスガ、何トカ眞面目ナ
途ニ還ツテ貰ヒタイト云フ氣持テ預ツ
タ所ガ眞面目ナ氣持ニ還ツテ貰ヒタイ
間違ヒニナル、而ソレガ國家社會ニ
大キナ迷惑ヲカケル結果ニナル、裁判
ニ依ツテ司法ノ運用ニ依ツテソレヲ結
果スル極メテ由シシ問題デアリマス
カラ、此ノ點ハ大イニ勇氣ヲ以テ御考
ヘ願ヒタイト思ヒマス、此ノ議會デハ
準備モ出來ナイデセウガ、私ハ其ノ點
戰刑法ヲ廢止シタ此ノ機會ニ申上ゲテ
置イテ、戰時日本ノ司法權カラ、文化

日本ノ司法權ヘノ切替ノ時期ニ當ツテ
司法省ガドウ云フ態度デ出テ來ラレ
カ、此ノ次ノ議會ニハ十分私ハ司法省
ノ態度ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス
コトデハイカヌ、此ノ判檢事ノ問題、
司法官ノ問題ハ人ガ足リナケレバ十分
殖ヤシテ、外國ノ裁判ノ司法權ノ運用
ナンカ見テモ、コンナ例ハナイ、大抵
判事ハ一人デスガ、此ノ判事ガ一人デ
一箇月ニ何十件モ何百件モ事件ヲ處理
類ヲ持ツテ來ル時カラ一年半ナラ一年
半ト書イテアル、三年ナラ三年ト書イ
テアル、大陸ノ標準ガアツテ書類ノ上
ノ標準ナノデス、ソレデ全クノ丸公カ
闇カ知リマセヌガ、相場ガ決シテ居ツ
テ、ツラツト讀ムダケナノデス、私ハ
今自分ノ家ニ一人サウ云ツタ立場ノ人
ヲ預ツテ居リマスガ、何トカ眞面目ナ
途ニ還ツテ貰ヒタイト云フ氣持テ預ツ
タ所ガ眞面目ナ氣持ニ還ツテ貰ヒタイ
間違ヒニナル、而ソレガ國家社會ニ
大キナ迷惑ヲカケル結果ニナル、裁判
ニ依ツテ司法ノ運用ニ依ツテソレヲ結
果スル極メテ由シシ問題デアリマス
カラ、此ノ點ハ大イニ勇氣ヲ以テ御考
ヘ願ヒタイト思ヒマス、此ノ議會デハ
準備モ出來ナイデセウガ、私ハ其ノ點
戰刑法ヲ廢止シタ此ノ機會ニ申上ゲテ
置イテ、戰時日本ノ司法權カラ、文化

ノ同志ガアノ事件ニ引掛リマシテ、私
ハ法廷ニ居ツタノデアリマス、區裁判
所ノ監督判事デスマカラ、此ノ人ニ決定
權ガアル、其ノ人ガ判事ノ席カラ威猛
高ニナツテ曰ク、政府ノ政策ヲ批判ス
ルヤウナコトハ一億一心ノ御詔勅ニ反
スルト思ハヌカ、斯ワ言フ、私ハ此ノ
位低級ナ頭デ裁判サレタノ大變ダト思
フ、返ス言葉ヲ持ツ者ハ宜シイ、併シ
多クノ者ハハツト平伏シテシマヒマ
ス、頭ヲ下ダテシマヒマス、裁判長ニ
壇上カラ、一億一心ノ御詔勅ニ反スル
ト恩ハヌカト歎鳴ラレル、司法大臣御
承知ノ如ク最近共産黨ノ渾動も相當活
潑ニナリマシタ、是ニ問題ガアルノデ
ス、天皇制ト云フモノハ政治制度上ド
ノ面ニ如何ニ利用サレテ來タカト云フ
コトハ、此ノ際嚴肅ニ判断シケレバ
ナラヌト思フ、殊ニ裁判ト云フモノハ
天皇ノ名ニ於テ行ク、政策ヲ批判シ
タ、コソナ間違ツタ政策ハ改メナケレ
バナラヌ、改メナケレバ戦争ニ負ケル
ンダ、正シイ國家民人ノ幸福ハ得ラレ
ナイト云フ見地カラ政府ノ政策ヲ批判
スル、ソレヲ政府ノ政策ヲ批判スルナ
ウナコトハ一億一心ノ御詔勅ニ反スル
ト思ハヌカト頭カラ歎鳴ル裁判所長ガ
居ル、判事ガ居ル、是ハ斷ジテイケマ
セヌ、ドウシテ改メラレルカト云フコ
トヲ私ハ具體的ニ御考ヘ願ヒタイト思
フ、其ノ人達ハ今全部居ルガ、恐ラク
居ル、判事ガ居ル、是ハ断ジテイケマ
セヌ、ドウシテ改メラレルカト云フコ
トヲ私ハ具體的ニ御考ヘナケレバナラヌ、裁
判所トカ或ハ警察トカ云フ所ハ、眞面
ナ人間ノ行ク所デハナイト云フ客觀
ヨク昔カラ裁判官ノ頭ハ化石ダト云
フ、私ハ益々サウナリツ、アルト思フ、
ナゼカナラバ、大臣ガ今言ハレマシタ
私ハ頭ガ變ツテ居ナイダラウト思フ、
此ノ點大イニ考ヘナケレバナラヌ、裁
判所トカ或ハ警察トカ云フ所ハ、眞面

的認識ガアルガ、是モ間違ヒデアリマス、改メナケレバナラヌモノデアル、之ヲ改メルコトハ大臣ハ興論ニ依ツテ言ハレマシタガ、勿論興論モ要リマスガ、司法部御自身モヤハリ私ハ其ノ御努力ヲナサレナケレバナラヌト思ニ言ツテモ、一ツノ惡ガアリマスレバ全部消サレシマフ、ドンニ宣傳ガナクトモ、毒ノ傳ハル、微ヨリ速カナリテ、立派ナ裁判ガ行ハレ、バ、之ニ親シミ信頼シ、敬意ヲ表シマス、私ノ友人デ辯護士ヲシテ居リマスガ、曾テハ判事デアツタノカ憮ミ抜イタ自分ノ書イタ判決文ガ正シカツカドウカ、之ニ依ツテ其ノ人ノ將來ハドウナルカ考ヘ憮ミ抜イタ駆引、其ノ翌日辭表ヲ出シテ今辯護士ヲシテ居リマスガ、私ハソレヲ「考ヘ戴キタイ、又私ノ一人友人ノ判事ハ、謀叛ヲシテ自分ニ申テ、三田村君、此ノ間魚屋ガ來テ才前サンノ所ハ何デスカト言フ、判事ダト言フト、判事サンハ偉クナルト警察署第ノデス、裁判所ニ行クノニ汚レノ場所ニ行クト云フ印象ヲ持ツテ居リマス、此ノ冷遇ヲ改メナケレバナラヌ、ソレハ持ツテ居ル民衆モ惡イガ其ノ雰囲氣ノ中ニ尙ホ依然トシテ存在スル裁判所ガ惡イ、民主日本ノ建設ハ民衆ト云々共ニ裁判権ガナケレバナラヌ、世ノ中ノ人ハ人民裁判ト云フコトヲ言ツテ居リマスガ、私ハ人民裁判ハ正シイカ正

シクナイカハ別トシテ、ヤハリ裁判ハ
人民裁判デナケレバナラヌ、少クトモ
ソレダケノ存在デナケレバナラヌ、共
産黨ノ言ハレル人民裁判トハ違フ、是
ハ自カラ別個ナモノデアツテハイカ
ヌ、其ノ爲ニモウーツ御考ヘ頤ヒタイ
コトハ、私ハ司法大臣ト議論シテ居リ
マスト、一日掛ツテモ二日掛ツテモ盡
キヌカ分リマセヌカラ適當ニ止メマス
ガ、其ノ點ニ於テ一ツ御考ヘ頤ヒタイ
コトハ、司法警察ノ間際アス、是ハ日
本ノ警察制度ノ沿革カラ言ツテモウ
疾クニ考へ直サナケレバナラヌ點ザア
リマスガ、ヤツテ居ラヌ、大正十一年デ
シカ力、刑事訴訟法改正ノ際ニモ問題
ニナリマシタケレド、内務省ハ行政
警察ヲ離シタクナイト云ソコトハ昔カ
ラノ傳統アリマス、併シ私ハ内務省
ハ行政警察ノヤウナモノヲ離シタクナ
イ、今ノ行政警察官ガ司法警察官トシ
チ持ツテ居ル立場ヲ捨テタクナイコト
ハ、私ハ今マデノ日本ニハ通用シタガ、
今後ハ通用シナイ、「ボタダム」宣言ハ
ソコニアル、警察ガ捜査ジテ權力支配ノ
前衛機関アリテハナラヌ、發給ガ行
政ノ面ト司法ノ面ト併セ握ツテ、權力
政治ノ前衛機關アリ得タ所ニ今日マ
テノ日本ガアツタ、サウ云ノモノヲナ
クスル、サテ云フツノ性格フナクス
ル爲ニハ、今日勇敢ニ行政警察ト司法
警察トツ切離ス、是ハ司法省トシテ多
年・縣安デシタ、サウシテ之ヲ直接檢
察機關ノ下ニ置イテ、正シ搜査權ト
云ノモノガ私ハ行ハレナケレバイカス
ト思フ、又私ノ體驗談デハアリマセヌ
ガ、私ハ警察廳ノ留置場ニ丁度百日居
リマシタ、此ノ百日間ノ扱ヒガ例ノ所
謂行政檢東ズ、毎朝放免デ出テ、晚
ニ又留置場ニ戻ツテ行ク時ニハ新入り

チ入ル、百日間放免、新入りヲ練返シ
チ居ツタ、是ガ遵法精神ハ戰力增强ノ
一翼ナリト言ハレテ居ツタ岩村司法大臣
臣ノ下ニ行ハレテ居ル、私ハ餘り多ク
ハ言ヒマセヌガ、是ガ通用シナインゾ
ス、三田村武夫ハ之ヲ言ヒマス、併シ弱
キ民衆ハ何處ニモ抗議ノ途ガナイ、弱
キ民衆ハ一寸警察カラ呼出シガ一過來
ルト、何カ矧テヌ、一寸來イエハ既斷
スルナト云フノガ日本ノ通り言葉デ
ス、行クト得シトレト待シテ置ク、
時間ガ遡ウナツタ、今日ハ入レテ置ケ
ト言フ、何處ニ入レルカ、是ガ留置場
デス、翌日、アイツ入レテアツタナ、
一寸出シテ裏レ、一寸出シテ、モウ一
遍入ツテ居レ、警視廳ヲ聴イテ見ルト、
ト言ヘヌダラウ、行政處分ダトモ言ヘヌ
一番多いノハ一年以上モ検索デ入ツ
シタ時ニ、検事サン、一體斯ウ云フ質
テ居ル、而モソレラ司法省ハ平然トシ
テ受取ルノデス、検事局ハ平然トシテ
受取ル、私ハ自分ノ身柄ヲ検事局ニ移
シタ時ニ、検事サン、一體斯ウ云フ質
問ヲシタラドウ答辯スルカ、三田村ハ
ウ答辯スルカ、マサマ司法處分ダトハ
廳ニ居ツタ身柄ハ一體何ダ、何ノ處分
ダラウ、行政處分ナラ何故身柄ヲ引取
ツタ時冒フ、司法處分トモ言ヘマイ、
併シアナタハ儘カ百日間警視廳ニ居ツ
タ時ニ調書ヲコンナニ積シテアルノヲ
受取ツテ居ルデヤナカニカ、アントダウ
ケレバ、ハイケマセヌゼト係ノ検事ニ言ツ
タンデスガ、ソレガザラナンデス、三田
村ハマダ抗議ノ途ヲ知ツテ居リマセ
ウ、併シ多クノ善良ナル市民ハ抗議ノ

途ヲ知リマセヌ、唯怨ミノ一語ヲ以テ終生終ルノデス、ソコデ今大臣ガ言ハレマシタ警察トカ裁判所ト云フモノハ眞人間ノ行ク所デヤナイ、斯ウ云フ社會的印象ト認識ガ出テ來ル、社會ノ眼ガ惡イノデヤナイ、實ハ主體ガ惡イノデス、是ハ一ツ私ハ御考ヘヲ顧ヒタイト思フ、サウシテ私ガ警視廳ニ居ル間デモ知ツテ居リマスガ、司法警察ト云フモノヲ私ハ檢事局ニ直接取ツテ貰ヒダイト思フ、檢事局ハ書類ノ上デ事件ヲ受取ルノデス、現行犯テアツタ場合ニ、檢事が直接現行犯處分スルコトハアリマスケレドモ、大體ハ司法警官ガヤル、サウシテ檢事局ハ書面ノ上デ受取ルノデス、書面ノ上デ人間ヲ受取りマスガ、其ノ書面デ檢事局ニ渡ルマデノ扱ヒハ實ニヒドイモノナンデス、殊ニ經濟違反ナドト云フモノハ、私ノ直グ隣リノ部屋ガ調室ニナツテ居テ私ハ知ツテ居リマスガ、毎日耳ヲ掩ヒタクナル、ソレハモウビイヽ泣き叫ブ、ビンヽ殴歎入歎ル、毎日ヤルンデス、是モヤハリ人間知ラン、家ニ歸ツチ平氣デ飯ヲ食ソノカ知ラントヨク思ツダンデス、實ニヤルンデスヨ、是ガ一ツノ習性ニナツテ居ル、習ハシニナツチシマツテ、何トモナライシイデス、サウヤツテ事件ニナツテ行クンデス、私ハ日本ノ裁判ヲ見ナガラ、司法權ノ運用ノ形式ヲ見ナガラ、先般來「マニラ」に行ハレテ居ル山下大將ノ裁判ヲ見テ、流石ニ文化ノ程度ガ違フと思ツテ敬意ヲ表シテ居ル、向フハ、勿論辯護士團デアリマスガ、向ソノ事件ヲ扱フヤリ方ハ、被告人ニ不利ナ點バカリ探サズニ、有利ナ點ヲ探サウトシテ居ル、日本ノ刑事訴訟ニモ以前カラ被告人ノ爲利益ナ點ヲ探セトアツタケレドモ、

一遍モサウ云フコトハヤツタコトガナレバナラヌ、所謂刑事根性ト云フモノニ依ツテ組立テラレタ日本ノ司法警察ハ一遍壊サナケレバイケナイ、人ノ間法省デ以テ權威ヲ以テ願ヒタイ思ヒマス、中途半端ノ考ヘハ止メテ貴ヒタイ、司法制度ノ改革モ相當今日ヤカマシクナツテ來テ居ルカラ、少シ豫算モ殖ヤシテ、中途半端ナコトヲヤルト云フコトハ止メテ戴キタイ、大イニ權威ト勇氣ヲ以テ變ヘテ貴ヒタイ、サウシナケレバ改マリマセヌ、日本ノ司法權ト云フモノハ、私ハ汚言棄テ何時モ言フンデスガ、幕府ノ岡ツ引政治トチツトモ遼ハナイ、惡代官、岡ツ引憚リマセヌ、サウ云フ建設デアツテハ政治、其ノ前提機關デアツタモノガ日本ノ司法機關デアツタ、私ハ斷言シテハス、是カ違警罪ヲ扱フ面ナラ營繕ニ隸屬シテモ宜イデスガ、今日ノ司法警察ハ違警罪デヤナインデス、刑法的警察行爲ノ主體ニナツテ居ルノデス、刑法的搜索行爲ノ主體ニナツテ居ルノガ今日ノ司法警察デス、検事ハ書面ノ上ノ捜査活動シカヤラヌ、斯ウ云フ譯デスカラ搜査ノ主體デス、捜査権運動ノ主體デアル、是ハ検事ト云フモノガ抱持モ中心ニナツテ検察制度、捜査権ノ發動ノ機関ト云フモノガ制度的ニ組織ニ私ハ再警備サレナケレバイカヌ、

○岩田國務大臣 只今ノ司法警察ニ關スル點ハ、我々ノ方デモ同ジヤウナ考ヘ持ツテ居リマシテ、検事局ノ下ニ司法警察官ヲ置クト云フ案ヲ立て、シテ拷問ノ手段ニ依ツテ自白ヲ強要スルト云フ弊モ公知ノ事實デアリマシテ、是ガ一面ニ於テア直接ニ斯様ナ非合法ナ措置ヲ禁ズルト同時ニ、他面ニ於テハ、捜査方法ヲモウ少シ科學的ニ行フ研究、教養ヲ積ミタイト云フコトデ、今具體的ノ方法ヲ講ズルコトニ著手シテ居ルノアリマス、其ノ他御述ベニナリマシタコトハ、大體私共ガ今考へテ居ルコトト同ジアリマシテ、御考ヘノヤウナ方針テ今著々進行シテ居リマス、ソレダケヲ申上ゲテ置クノデアリマスガ、先刻局外者ガ自分ノ身ニ關係シタコトガ起ツタ時ニ初メテ関心ヲ持ツト言ヒマシタノハ、三田村君ノコトヲ言ツタノデハアリマセヌ、アナタハサウデナクテモ司法ニ關係ノ方デアルノデ、我々ノ先輩友人テ司法ニ關係ノナイ行政部面ニ居ツタ人チ現ニサウ云フ人ガ多數アルノデアリマスカラ、其ノコトヲ言ツタノデアリマス

カ、或ハ檢察陣ノ不足ト云フ御答辯ナラ
最初カラ了承致シマセヌ、是ハ警察ガ
手不足ニナツタトカ、或ハ檢事ガ手不
足ニナツタカラ、ダカラ斯ワ云フ事件
ガ起ルノダト云フヤウナ御答辯ナラ私
ハ了承致シマセヌ、何處ニ原因ガアル
カト云フト、是ハ敗戦カラ今日マデノ
日本の性格カラ來テ居ルノデス、詰リ
秩乎ノナクナツダ所カラ來テ居ルノデ
ス、客觀的ニ秩序ガナクナツタト同時
ニ、主體的ニ秩序ガナイノデス、是ハ
一般ノ民衆ニモナイシ、檢事ニモナケ
レバ、警察ニモナイ、之ハ極メテ重要
ナ問題アリマス、私が最初ニ司法大
臣ニ申上ゲマシタ、戰爭日本カラ敗戦
日本ヘ、是ハ言葉ノ上ノ理解ハ禰デス
ガ、實際之ヲ身ニ依シテ實踐スル場合
ニハ、サウ樂チャナイノデス、難カシ
シ問題ナシニデス、例ヘバ今檢事局ニ毎
日出テ行ツテ事件ヲ扱フ檢事ニシロ判
事ニシロ、昨日言ツタコト今日言ツ
タコトト違フノデス、昨日罪デナツタ
コトガ今日ハ罪デナクナル、此ノ戰刑法
ノ廢止デモ、戰時芻盜、戰時強姦、戰
時殺人トシテ極刑ニ處スベキ者ガ、此
ノ法律ガナクナツタ途端カラ變ツテ來
ル、法律ガナクナルト同時ニ罪ノ消エ
ル者モアルノデス、ソレハ實際扱フテ
居ル人ノ心理的影響ト云フモノハ、是
ハ中々深刻ナモノデス、警報音デモ、
同様デス、今身ヲ挺シテ治安維持ノ責
ニ任ジヨウト云フ者ハ、私ハナイト斷
言シマス、檢事局ニ於テモ同様、大マ
メヲ持ツテ居リマセヌ、人間ハ自分自
カナ極端ナ表現ヲスレバ、恰モ無鬱怒
的ナ狀況ニアル今日、ソコニ於テ一般
ノ民心ガ又無秩序ナンデス、心ノケジ
メヲ持ツテ居リマセヌ、人間ハ自分自

又、人間自身ガ一ツノ自ラナル秩序ガ存リ度ノ線カラモウ既ニ皆外レテシマツケ居ル、極端ニ言ヘバ人間デナクナツケ居ル、動物の本能が益々出でて居ル。今日デス、ソレガ自然ニ動クノデスカラ、不祥事件ガ起ツテ來ルノハ當リ前デス、而モ之ヲ締メテ行ク社會的手段方ナイ、法的ナ秩序モ失ハレテ居ル、而モ權威アル警察權、司法權ノ發動モ亦失ハレテ居ル、斯ウ云フ狀態ニ在ルノデス、ソニニ今日頃發スル強盗盜其ノ他ノ不祥事件ガアル、之ヲ他に面カラ見マシテモ、私ハ中野ニ住む者ニマスガ、此ノ間私ノ直グ隣リデ、華人ガ三四十名暴レテ居リマシタ、最後ニハ「エム・ビー」ガ出でテ手當ヲシタヤウデアリマス、私ハサウ云フ日本治安機關ノ附川斐ナサト云フカ、是モ大キナ原因ダト思フ、戰爭ニハ負角ノタノデス、「ボツダム」宣言ハ受諾シシタガ、爲スベキコトハ斷乎トシテ僕ナカト思フ、日本ハ日本自ラノ責任ニ於テ其ノ治安ヲ維持シテ行カナケレバナリマセヌ、聯合國ノ占領軍ハ保護古領デアツチ、日本ニハ軍政ガ布カルル、此ノ邊ノ決心ガ内務省モ司法省モ悉ク日本政府ニ依ツテ之ヲ行ソ、其ノ建前カラ治安ハ日本政府ノ責任ニアツテ居ルノハナイ、内政ノ問題ハ總て事件ガ起ツテ來ル場合ガアル、遂ニハ團體的行動トナツテ來ル、ソヨニ測ラザンハ類似シマスヨ、由々シキ問題デアツル、ソレガ一人デ起ル場合ト、複數デ事件ガ起ツテ來ル、サウ云ノ事件方ガ居ル、此ノ邊ノ決心ガ内務省モ司法省モ足ラヌノデハナイカ、ダカラ、云フ事例、ソレガ一人デ起ル場合ト、複數デ事件ガ起ツテ來ル場合ガアル、遂ニハ團體的行動トナツテ來ル、

結果ヲ招來ズルコトヲ我々ハ惧レマス、此ノ問題ニ付テハ私ハ一ソ御決心ヲ願ヒタトイ思ゾ、ソシテ一般ノ民心ガモウ少シ安定スルヤウニシテ惑キタ後ニナルト外カラ跡ヅテ來フレヌト言フ、家庭ノ婦人ガ皆言ソノデス、私達モドウカスルト少々不氣味ナコトヲ感ジマス、斯ウ云フ状態ニ一般ノ人心ヲ置クコトハ甚ダ悲シムベキコトデアル、同時ニ國家ノ爲ニ大イナル不幸デアリマス、人心安定ノ爲ニ、不法行為、強盜トカ殺人トカ云フモノハ正ニ不法行爲ナシデス、自然ナル不法行爲デ、最モ本質のナル刑法犯デス、斯ウ云フモノハ、戰時立法ガアルナイニ拘ラズ、當然社會秩序ニ對スル最大ノ惡トシテ取除カナケレバナラヌ、サウ云フモノニ對スル私ハ斷乎タル御決心ガ願ヒタトイ思フ、今日非常ニ其ノ點ニ於テ不安ヲ持チ戰イテ居ル民心安定ノ爲ニ之ヲ如何ニナサレマスカ、此ノ一ヶ御願シタトイ思ヒマス
○岩国國務大臣此ノ顔色々見惡ヲ犯罪ノ起シテ居ルコトハ洵シ様シムベキコトデアリマスガ、此ノ原因ハ實ハ單純デハナイヤウニ考ヘルノデアリマス、華人労働者、或ハ朝鮮人等ノ多數暴動的ノ犯罪、是ハ敗戦後日本ニ於ケル特殊ノ原因ニ依ルモノト見カ宜ハヌ、ウト思ノアリマスルが併し戰役ニ種々殺人罪等ガ多ク出ア来ルト云フ事トハ、是ハ日本バカリデナク、歐米ニ於テモサウ云ノ現象ハアルヤウデアリマシテ、其ノ共通的ノ原因モアルダラウト思フノデアリマスルガ、其ノ他ニ三田村君ノ言ハレマシタヤウニ、日本ノ現狀ニ於キマスル社會秩序、法律秩

○三田村泰員 私ハ此ノ質問ハ是デ終
リマスガ、今ノ司法大臣ノ御言論ニ、
私ノ申上ダコトニ誤解ガアツテハナ
ラヌト思ヒマスカラ、モウ一言申上ゲ
テ御所見伺ツテ置キマス、固ヨリ私
ハ司法的處置ダケデ此ノ問題ガ解決ス
ルトハ思ヒマセヌ、寧ロ司法的處置ハ
其ノ從ナル立場デアリマス、今日ノ社
會不安、其ノ社會不安ノ中カラ生レ出
ズル所ノ社會的惡——殺人ニシテモ、
竊盜ニシテモ、私ハ之ヲ敗戦ノ悲劇方
産ミ出シタ所ノ特殊ナル社會的惡ト
言ヒタイデアリマスガ、之ニ對スル認
識ガ自ラ違ハナケレバナリマセヌ、私
ハ司法權ノ立場カラ見タ社會的惡ヲ、
唯司法角角度ニ於テノミ之ヲ指導サレ
ナイコトヲ此ノ際御頤ヒ致シマス、私
ガ裁判所デモ、警察デモ、屢々經驗シ
タコトデアリマスガ、司法省ハ今大臣
ガ仰シヤツタヤウニ、何時デモ非常ニ
貴重ナ資料ヲ持ツノデス、一人ノ犯
罪者ヲ調べテ見テモ、非常ニ貴重ナ資
料ヲ持ツ、ケレドモ當ニ其ノ資料ハ死
藏セラテシマフ、司法省ト云フモノ
ハ、司法権運營ノ上ニ出来ル譯デス、是ガ
善、社會的惡、國家的善、國家的惡ト
云フモノハ自ラ分ツテ來ル譯デス、司
法ノ面カラソレハ出來ル譯デス、是ガ
今マヂハ積極的ニ、動的ニモノヲ言ハ
ナイデ、其ノ善一面モ上カラ抑へ付ケ
ラレテ來タ、唯上カラノ言フ通リニ
コトデアリマシテ、又ヤル考ヘデゴザ
イマス

ナツテ來タ、是ハ民主主義デヤナイ、司法面カラ言フ民主主義體制ト云フ
モノハ、司法ヲ通ジテ派出シタ所ノ社會的善、社會的惡ト云フモノハ、國全體ノ制度ノ上ニ活カシテ行クコトガ、私ハ眞ニ民主政治ダト思フノデス、今ノ殺人ノ問題デモサウデスガ、是ハ私ハ理知ニシテ方惠ナル眞ノ社會秩序ガ確立サレナイト、此ノ問題ハ如何ニ司法省ガ努力サレテモナクナラスト恩ノ、現質ノ問題トシテ食ヘナイ者ガアル、食ヘナイ時ニ、人間ハ人間ノ尊嚴ヲ護ツテ行ク道ガ数ヘラレテ居ル、其ノ社會ガアレバソレハ謹ツテ行キマス、食ヘナクテモ人間ノ護ツテ行ク道ガ保テレバ、社會的秩序ヲ破壞シナイデ、生キル道ヲ考ヘマス、其ノ道ガ寒ガレタ場合ハ、己レノ生命ヲ断ツテモ社會的秩序ヲ破ラナイト云フ人間的尊嚴ガアル、ケレドモ今ノヤウナ狀態デハ、其ノ人間的尊嚴ヲ何處ニ置キ所ガナリ、デアリマスカラ何處ヘ行クカト云ブト、食ヘナクナレバ泥棒デモ強盜デモ何デモヤル、明日カラ食ヘナイ、銀行預金モ郵便貯金モナクナシテシマツタ、百五十圓ノ會社ノ給料デハ米二升モ買ヘナイト云フ立場ニナレバ、而モ、オハヒニ愛ズル社會ノ秩序ナク、共ニ譏フナケレバナラナイ尊嚴モナイ、斯ウナツテ來レバ泥棒ト同ジヨトハ、司法制度ノ民主化ト云フ日地カラズレバ、司法、事務、中カラ社會的善モ社會的惡ヨ出ル來ル譯アリマス、リ前デス、ソコニ大イナル政治ノ問題其ノ司法ノ事務ノ中カラ出ウ來ル社會的善モ惡モ、司法材薄營、中カラ出ブ

ニ汲出シテ、實ヒタク、サウシテソレヲ
或ハ法律ノ上ニ、或ハ行政ノ上ニ、之
ヲ反映セシメテ行クト云フコトガ異ノ
民主政治アリマス、司法省ハ司法省
ダケデ動ク、上カラノ命令ニ依ツテ動
クト云フコトハ眞ノ民主政治デハナ
イ、ソレハ官主の政治ト私ハ言ヒタ
イ、官主政治、權力政治デアツテ、今
マデガサウ云フ形デアツカラン間違ツ
テ居ル、私ハ司法省自身ガ司法省ノ活
動ノ面カラ汲上ゲテ來ル民主的ノ素朴
ナル國民ノ聲、犯罪ヲ通ジテ見タル社
會的善ト惡トフ非常ニ大キナ力トシテ
汲上ゲテ行ケルト思フ、斯ウ云フ點ニ
コトナラ、特別ノ施設ヲ講ジテ、サウ
間ヲ擗マヘテ之ヲ處斷スレバ宜イ、是
ガ司法権デハナイト私ハ想フ、出來ル
付ア今後大イニ御考へ願ヒタク、唯人
云ソツヨリ御開キ願ヒタイト思ヒマス、
色々中上ゲ色々同ツテ見タイコトモア
リマスガ、今日ハ時間モ過ギマシタカ
ラ、又別ノ機會ニ譲ルユトニ致シマシ
テ、司法大臣ニ對スル私ノ質疑ヲ終リ
之ヲ國全體ノ立場カラ政治ノ上ニ、行
政ノ上ニ反映セシメテ行クト云フコト
ガ、非常ニ大切ダト思ヒマスガ、サウ
云フ點ニ付テ何カ御考へガアリマセヌ
カ、アリマシタラ伺ツテ置キタイト思
ヒマス

械組合ノ經營ヲ困難ニ陥ラセテ居ル點モアリマス、又診療費當者ガ事務的ナ煩雜サニ非常ニ憤サレ居ル現状ニアリマス、是等ノ改善ノ方法ヲ採ラルベシタ、改善ノ途ニ付テノ御意思カアルカ、或ハ若シモ改善サレル意思持ダガ、今以テ何等改善ノ方途考講ニラレルナラバ、只今ドンナ方向ニ進ミテ居ナイト思フノデアリマスカ、斯ウアリマスカ、其ノ點ニ付テ御尋不致ンタイ

百乃至十四百「カロリー」¹で、配給量以外ノ食糧ヲ攝取致シマスル分ヲ考ヘマシテモ、千ノ百乃至千八百程度、斯ウ云フ調査ノ結果ニ相成ツテ居リマス、此ノ不足ノ分ハ、何トシテモ第一ニハ食糧ノ増配ガ望マシイノアリマスカ、現在主食糧ノ關係カラ致シマシテ、早急ニハ困難デザイマスノア、是等ハ生鮮魚介、其ノ他ノ動物性蛋白質ノ補給トニ依ツテノ補ツテ參ルト云フ以外ニハ今ノ所方法ナシ、又食生活ノ方面ニ於キマスル科學的ナ栄養指導、斯ウ云ニ面ニ付キマシテモ、都道府縣ノ保健所或ハ栄養士會等ガ町村、町會等ニ付キマシテ、是等ノ指導ニ當ツテ居ルノデアリマス、未ダ以テ各家ニ密交スルマテニ至シテ居リマセヌガ、是等ノモノモ將來ニモ大イニ活動サセテ、食生活ニ於ケル榮養指導ト云イ、斯様ニ考ヘテ居ル次第アリマス、一般ノ醫療ノ問題ト致シマシテハ、只今隨着ノ復員ガアルカラ、將來良クナルダラウト云ソ御話ガアリマシタガ、戰時中、非常ニ醫師ガ不足致シテ居リマシテ、殊ニ農村方面ニ於テハ、無醫師等ガ非常ニ積工タノデアリマスガ、終戦後續々ト復員ヲ致シテ居リマシテ、寧ロ醫師過剰ノ状態ヲ呈スルトサヘ考ヘラレルノデアリマシテ、斯ウ云フ機会ニコソ從來ノ無醫村ト云フヤウナモノヲ解消スル方向ニ向ツテ力ヲ注ギタイト考ヘテ居リマス、既ニ從來醫師ガナカツタ村ニ相富醫師ガ診療所ヲ開設シタト云フ例モ聞イテ居リマスシ、又サウ云フコトノ出來ナカツタヤウナ町村ニ付キマシテハ、日本醫療團ヲシテ、赤字ヲ標榜テ、サウ云フ處ニ治療所ヲ設ケルト云フ方針ヲ以テ色々

施設ヲ講ジツ、マス、ソレカラ
药品ノ問題デア
ハ軍需品其ノ他
モ尙ホ十分ナ
ガ、先づ第一ニ
マシタ醫品等
ニ連スト云フノ
ノデアリマス、
金額ニ致シマン
アラウカト思ヒ
給スルト云フ
シ、尙又醫藥物
テ、原料其ノ他
今マデヨリハ相
持ツテ參リマス
シテ致シマシテ
トハナイト考ヘ
テ相富工場モ
デ、急激ニ増シ
イノデアリマ
致シマシテ、醫
ウニ十分努力
考ヘテ居ル次第
第二ニ各種ノ
ビ保険運營ノ策
付テ御話ガズモ
モ研究ヲ致シテ
御話ノヤウナチ
テ居ルト云フ程
アリマシテ、眞
麗く各方面力ア
リマシテ、専
的ニドウスル
ハ參ツテ居ア
ノ際急速ニ各士

アルヤウナ次第尙ホ御話ノ出マ
ナリマスガ、是モ
画ノ關係カラ、非
タノデアリマス
狀態デハゴザイ
一ハ陸海軍ノ持ツ
ヲ、差當リ一般
手段ヲ現ニ講シツ
是ハ相當量アリマ
シテ一億五、六千
マス、是等ヲ早
ヨコトヲ考ヘテ居
格當資材其ノ他ニ
ハノデ、是カラ先
ノハハサウ窮屈シ
ベマス、戰災ニ依
ノ社會保険ノ整理
学生省トシテモ、
簡素化ト云ナヤウ
ノ居ルノデアリマ
リマイシタガ、此
ノ意見ノ出テ居
度テアリマシテ
ト云フ所マデノ段
力向ニ向シテ研究
ノイデアリマス、
ト思ヒマス

地方ノ状況ヲ
果スウシタ藥
ソレガ手許ニ
マシテ、患者
ノ治療ニ要ス
ウナ形ガ非常
マス、左様ニ
申シナガラ、
ノデハナイカ
ウシタ死敵品
品ト申シマス
際急速ニ配給
ラレテ然ルベ
如何デアリマ
相富偏在シテ
ヘモ入手出来
て聞クノデア
態ガアルコト
マスガ、我々
ヤツテ居リマ
マシテハ、統
分ケマスガ、
マルノデアリマ
が消費者ノ手
題トシテ巧ク
マス、ソコニ
ヤウナコトガ
ムニ非常ニ困難
實モアツタラ
ハ實際問題ト
イノデ、ソコ
マシテハ、色々
致シタノデア
「フ譯ニモ参リ
ラ先ノコトハ
リマス、若シ
ハ、或ル所ニ澤
居ル、而モソ

スト、是ハ
ケレバナラ
ノデ、手續
ニ付キマシ
ツ、アルノ
内キマシテ、
アル、斯様
デアリマス
質問ニ付テ
御質問ノ點
情ノアルヤ
方面ノ意見
他薬代等ヲ
テ吳レ、斯
ヤウヂア
ガ非常ニ煩
モ情ヲ受
此ノ點ハ此
レ居ルヤ
一ツ改革ノ
テ居リマス
ニ依リマス
ラノ要望ニ
マス影響ト
何等力御調
セヌカ
點ハ、私モ
マセヌ、能
此ノ際何カ
ラバ、早急
ジテ居リマ
居ルノデア
マシテモ窓
ノ問題ハ相

